

## 建築家の魅力伝える出前授業

### 教育支援活動を入りに

JIA 三重では、3年前から教育支援活動を行っています。2018年度は、昨年に引き続き、会員でもある三重短期大学教授の木下誠一先生の協力のもと、住居環境コース1年生の住宅課題で事例紹介・エスキース・最終講評会の3回の出前授業を行いました。今回は、エスキースと最終講評会にほぼ同じメンバーで参加したことで、継続した指導が可能になり、エスキース後の成長を感じることができました。講評会では、それぞれの案についての講評に終始することなく、その案をきっかけに、参加した建築家が自らの建築に対する姿勢や思想などを語ることになり、学生にとってもメンバーにとっても有意義だったと思います。建築について大人が熱く、楽しそうに語っている姿を見ることも学生にとってはいいものではないでしょうか。来年度も引き続きお願いしたいとの言葉もいただいております。この活動の意義を感じています。また出前授業に携わることで、建築文化講演会や建築ウォッチングなどJIAイベントへの学生の参加も少しずつ増加している様子。教育支援活動を入り口として地域で学ぶ学生にかかわりながら、建築や建築家の魅力を伝えていくことの可能性を感じています。

森本雅史 (JIA 三重) |  
森本建築事務所



### 地域の建築家にできること

私は地元の大学で建築を学び、今も地元で活動しています。まだまだ私自身が未熟ではありますが、地域の建築文化に貢献できれば、という想いをもち始めています。ゆえに、今回の出前授業への参加を二つ返事で引き受けました。

私の1日目はエスキース指導。受け持ちの学生は7名で、全員女性でした。まだ1年生ということもあり、空間に対する理解度の個人差が大きいことに驚きました。しかし、理解が浅いからプランがだめな訳ではなく、浅いがゆえに大胆なアイデアもあり、とても面白かったです。ただ、過半の学生にみられた傾向として、平面的なスケールがイメージできていないようで、日頃から身近な物のサイズを意識すると良いとアドバイスしました。

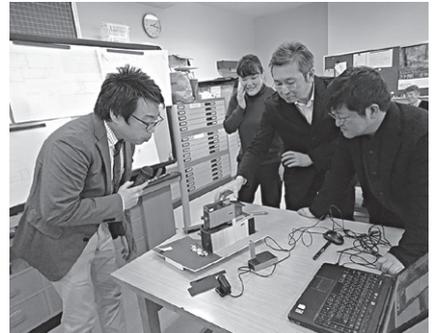
2日目は作品の講評。7名の完成プランを見ました。私のアドバイスを足掛かりに教授の指導をしっかり受けて、皆頑張ってくれました。改善する余地は沢山ありますが、実現性の高い作品や、アイデアが良く本当におもしろい作品もあり、期待以上の出来栄でした。最後は全グループから優秀作品を選出し講評会を行いました。皆白熱した講評を行い、学生もその姿を見て徐々に盛り上がってきたように感じました。学生だけではなく、私にとっても自分の成長につながる授業となりました。

出口基樹 (JIA 三重) |  
日新設計



### 学生のモチベーションの高まり

本学は家政系の公立短大で、インテリアや住宅に関心のある学生が多く学んでいます。特に、この住宅設計の課題では、プロの建築家から直接指導を受けられるということで、学生のモチベーションもいっそう高まり、意欲的に取り組む姿勢が見受けられました。また、3回にわたり、延べ14名の講師の方々に、様々な観点から丁寧にご指導していただいたおかげで、学生の作品の質も高まったように思います。従来作品は、どうしても普段見慣れ



学生の作品を見る JIA 会員



授業の様子

た商品化住宅のイメージに縛られる傾向にありましたが、より柔軟な発想による多様な作品が見られるようになりました。受講した学生からも、「プロの建築家の方がどのように住宅を設計し、どこに注意して設計しているのか等のお話を聞けたことが強く印象に残っています」といった声も聞かれ、プロの建築家の方から直接指導を受けることによる教育的効果も高いと感じています。また、学生にとっては憧れの対象であっても、ほとんど接する機会のない建築家の存在を、身近に感じる良い機会にもなったと思います。将来、学生の中から、講師の方々のような地域で活躍する建築家が一人でも多く育ってくれるよう、私自身も講師の方の指導方法を参考に、今後指導にあたっていきたいと思います。

木下誠一 (JIA 三重) |  
三重短期大学

